

2014年3月期 第2四半期業績概要

2013年10月31日

アンリツ株式会社

代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

I. 2014年3月期 第2四半期 業績概要

I-1. 事業概要

I-2. 連結決算概要

I-3. 2014年3月期 通期見通し

II. ソリューション、ESG、企業価値向上に関する 外部評価

I -1. 事業概要

計測事業

開発・製造・建設・保守用

- ▶ モバイル市場：LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備



産業機械事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率)

2013年3月期 実績(連結)：947億円

計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 25%	アジア、パシフィック 30%	米州 30%	EMEA 15%
-----------	-------------------	-----------	-------------

I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバーとして
米州・アジアが大幅に伸張し、計測事業が堅調に推移

セグメント	2014年3月期 第2四半期累計期間(4月-9月) の状況
計測	<ul style="list-style-type: none">・モバイル:LTE開発用、スマホ製造用需要が堅調・ネットワーク・インフラ:基地局整備の投資が堅調・エレクトロニクス:顧客の投資抑制傾向が継続
	<ul style="list-style-type: none">・日本:モバイル関連投資が大幅に減速・アジア:製造用・開発用のモバイル関連が堅調・米州:スマホ開発・基地局整備の投資が牽引
産業機械	国内・海外ともに堅調

I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

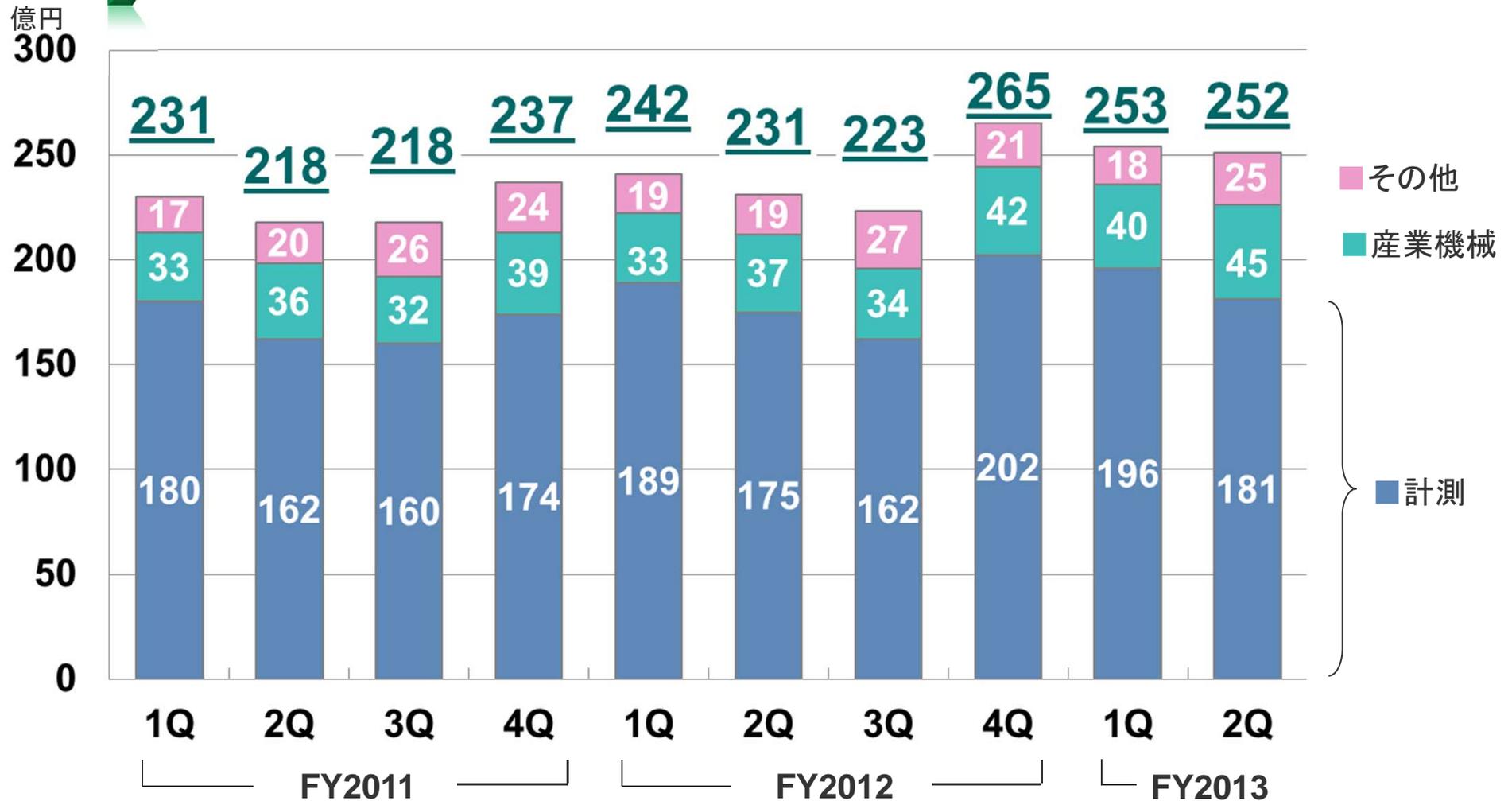
(単位:億円)

	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	473	506	33	7%
売上高	463	481	18	4%
営業利益	87	63	△ 24	△27%
税引前利益	81	66	△ 15	△19%
当期利益	69	43	△ 26	△37%
当期包括利益	61	56	△ 5	△9%
フリーキャッシュフロー	47	45	△ 2	△5%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

▶ 計測事業・産業機械事業ともに前年同四半期に対し増加



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

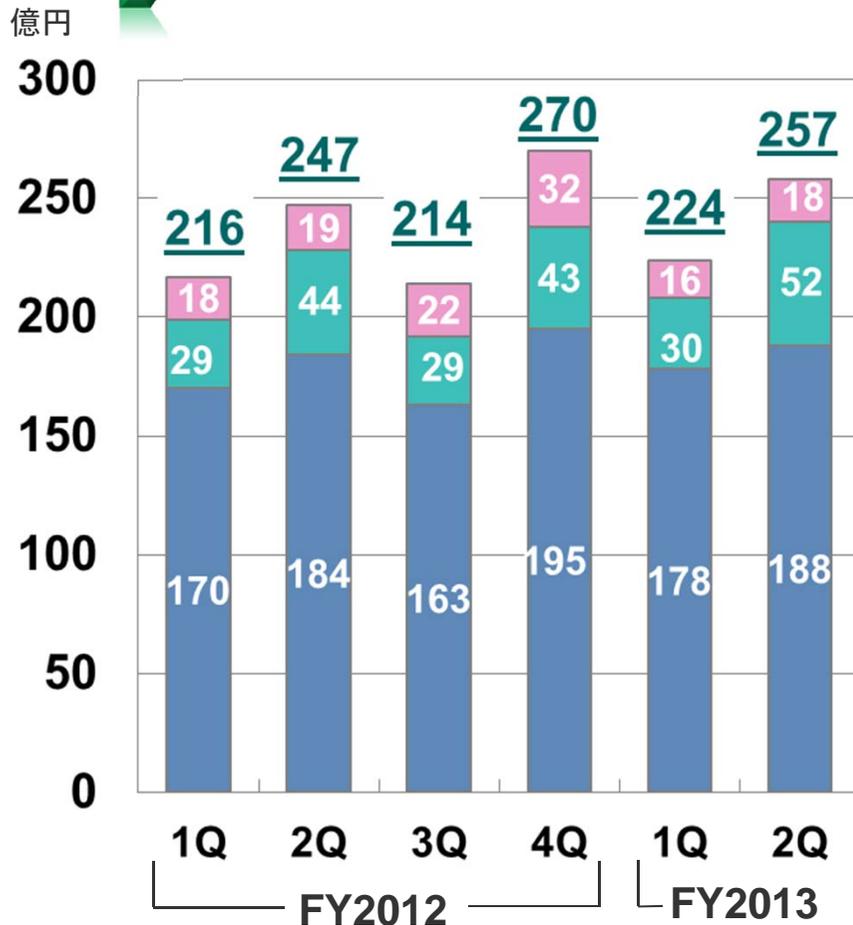
(単位: 億円)

		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	354	365	11	3%
	営業利益	85	61	△ 24	△28%
産業機械	売上高	72	82	10	13%
	営業利益	5	6	1	33%
その他 (含: 内部消去)	売上高	37	34	△ 3	△8%
	営業利益	△2	△4	△ 2	-
合計	売上高	463	481	18	4%
	営業利益	87	63	△ 24	△27%

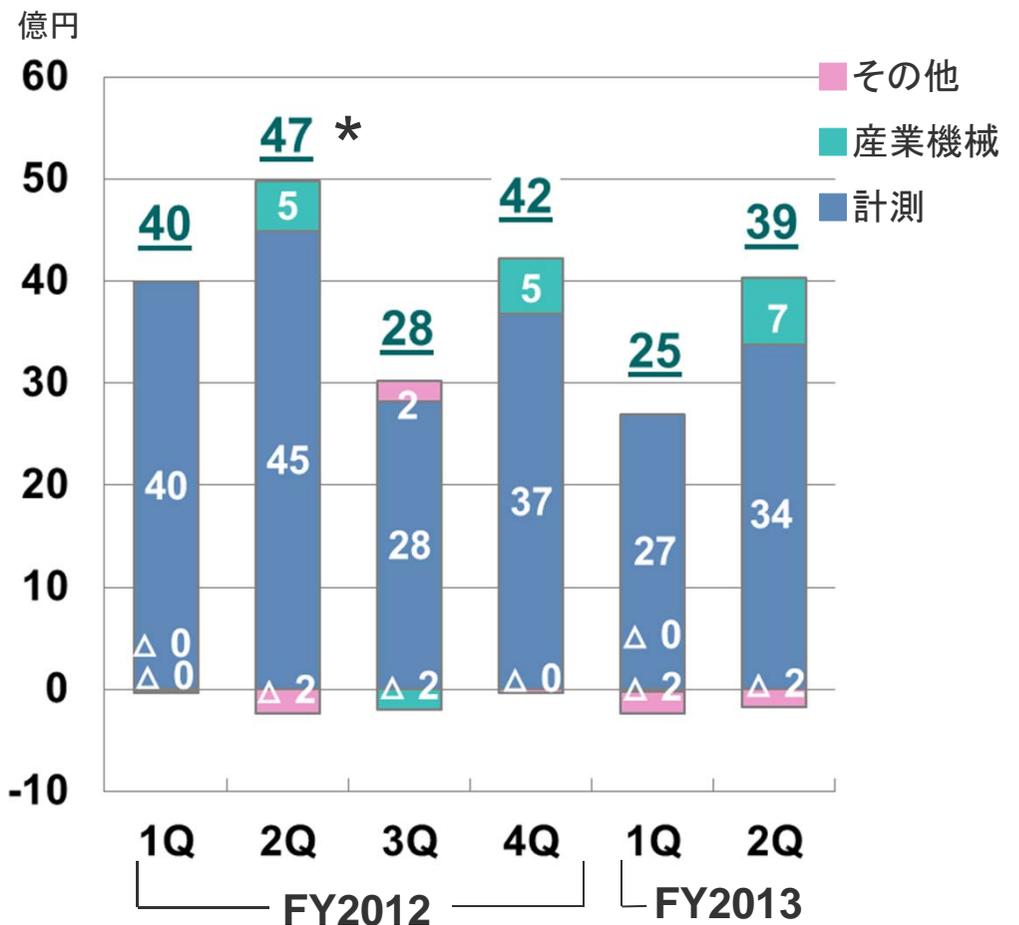
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 通期計画に対する第2四半期までの進捗: 売上高47%、営業利益37%



連結売上高



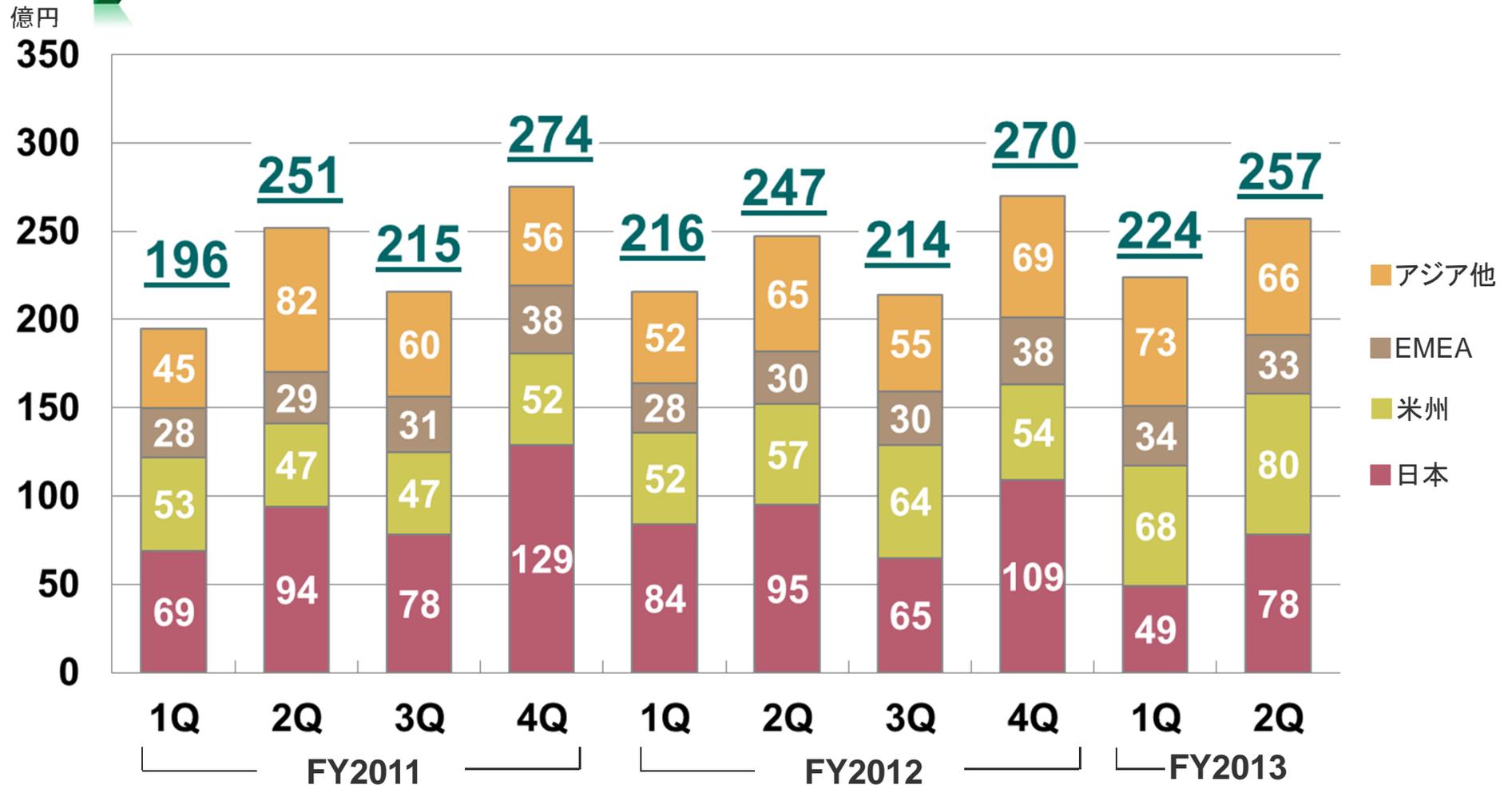
連結営業利益

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

* IAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。(修正前数値: 2Q連結営業利益48億円)

I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

 米州の計測事業が牽引



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 着実にキャッシュフローを創出

FY2013 2Q (累計)

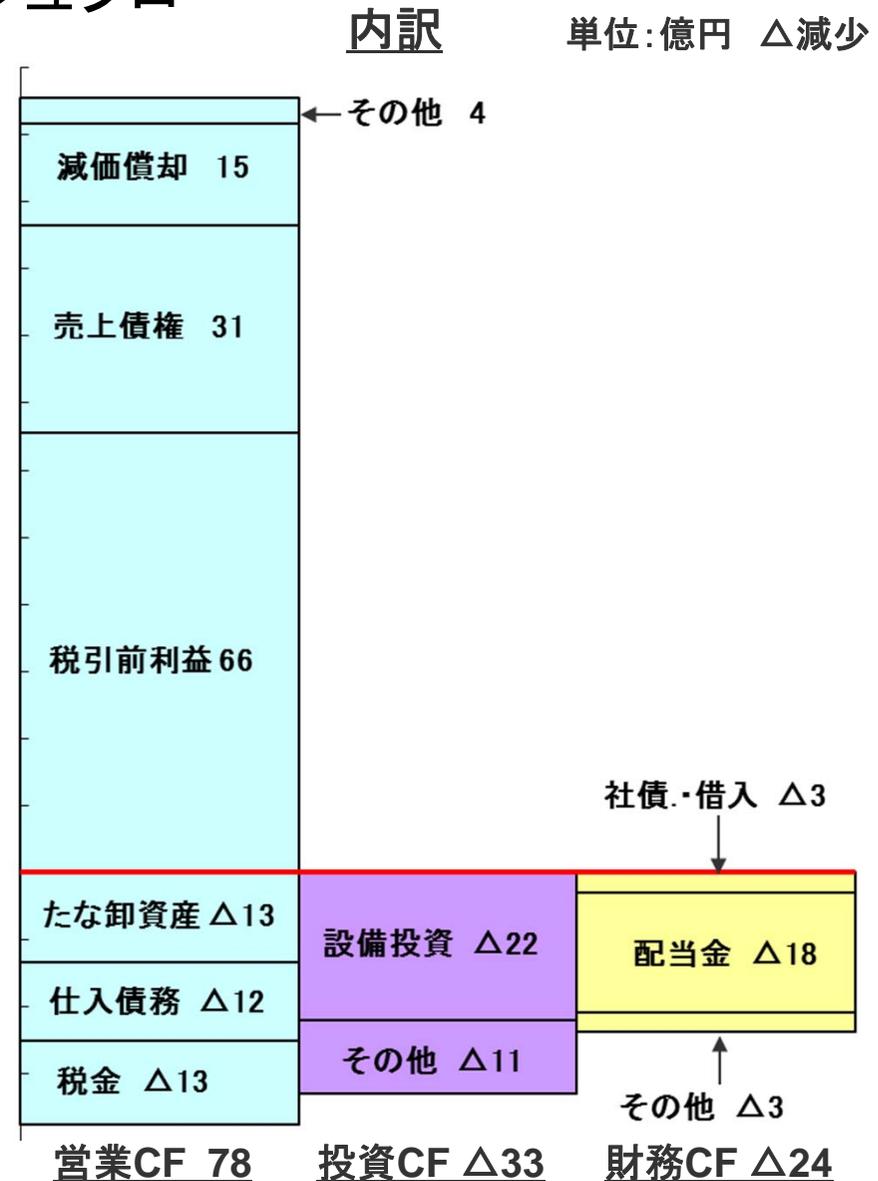
- ①営業CF: 78億円
- ②投資CF: △ 33億円
- ③財務CF: △ 24億円

フリーキャッシュフロー
(①+②): 45億円

現金同等物期末残高
405億円

有利子負債高
191億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



I -3. 2014年3月期 通期見通し(連結)

4月開示より変更なし

(単位：億円)

		2013/3期		2014/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		947	1,020	73	8%
営業利益		157*	170	13	8%
税引前利益		161*	165	4	2%
当期利益		139	115	△ 24	△17%
計測	売上高	712	770	58	8%
	営業利益	150	155	5	3%
産業機械	売上高	144	155	11	7%
	営業利益	8	10	2	23%
その他	売上高	90	95	5	5%
	営業利益	△ 1	5	6	-

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考)第3四半期以降 想定為替レート: 1米ドル=90円
1ユーロ=120円

* 前期実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。
(修正前数値: 営業利益158億円、税引前利益162億円)

Ⅱ-1. LTE-Advancedのコンフォーマンステストシステム で業界初のGCF 認証を取得

LTE-AdvancedのRFおよびプロトコルコンフォーマンステスト認
証数で業界No.1*を獲得 *GCF/PTCRB認証数:2013年10月16日時点



RFコンフォーマンステストシステム
ME7873L

プロトコルコンフォーマンス
テストシステム ME7834



*コンフォーマンステスト:

携帯端末の送受信特性や通信手順が国際規格に適合しているかを確認するための試験

*GCF, PTCRB:

携帯端末のグローバルな相互接続性を保証するため、ネットワークでの運用基準や携帯端末の認証試験基準を定めている団体

II -2. 2013 Global Frost & Sullivan Awardを受賞(1)

Award for Market Share Leadership



サイトマスタ S331L

ハンドヘルド・ケーブル &
アンテナ・アナライザ市場をリード

*Frost & Sullivanは、グローバルな市場調査会社です。

Ⅱ-2. 2013 Global Frost & Sullivan Awardを受賞(2)



PIMマスタ MW82119A

移動通信基地局の建設・保守向けに、大幅な小型軽量化を実現

*PIM: 送受信で異なる周波数を用いた通信システムにおいて、複数の周波数の信号が伝送された際に、その周波数の差に応じて発生する妨害波

II-3. 「FTSE4Goodインデックス」構成銘柄に採用

2013年9月の定期構成銘柄見直しで採用

環境、社会、企業統治(ESG)に関するリスクの管理に優れた企業として評価

今回の見直しによる新規組入れ銘柄は30社、うち日本企業はアンリツのみ

2013年9月時点の組入れ銘柄数は世界749社(うち日本企業180社)



ロンドン証券取引所

*FTSE4Goodインデックス:

世界の代表的な社会的責任投資(SRI)指標として、ESGに関する世界基準を満たす企業を構成銘柄とした指数。

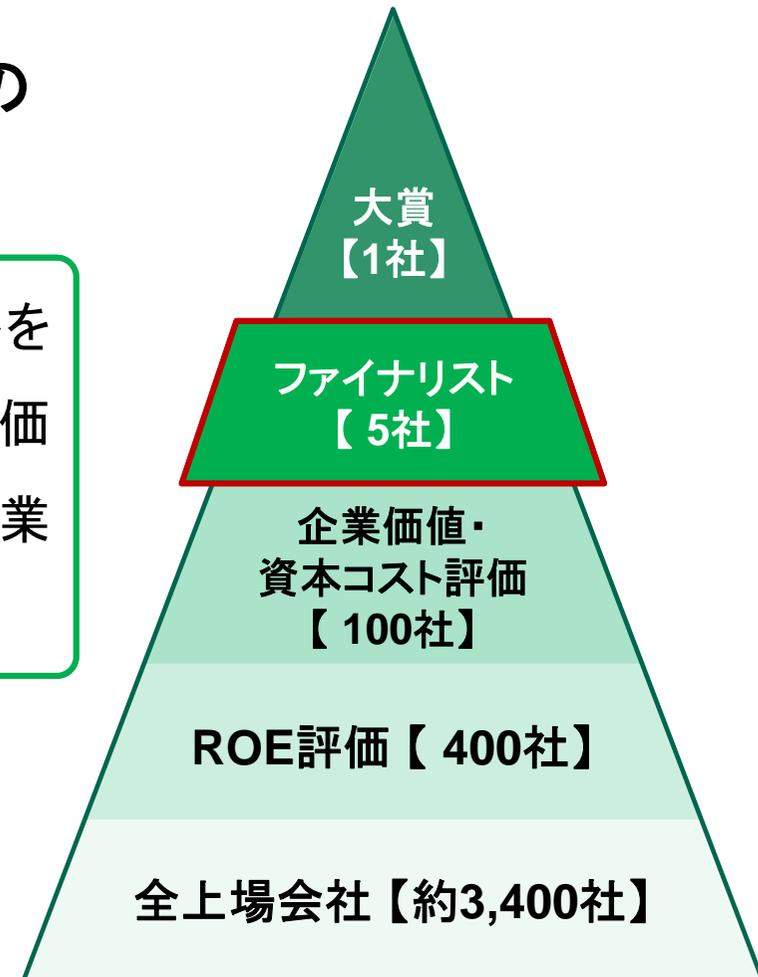
FTSEグループは株式・債券などの投資判断指数を提供するロンドン証券取引所100%出資の企業。

II-4. 東京証券取引所「企業価値向上表彰」 ファイナリストに選定

全上場会社 約3,400社の中から5社の
ファイナリストにノミネート

高い企業価値の向上を実現し、資本コストを
はじめ投資者の視点を深く組み込んで企業価
値の向上を目指した経営を実践している企業
を表彰

大賞は2013年12月に決定予定



Anritsu

Discover What's Possible™